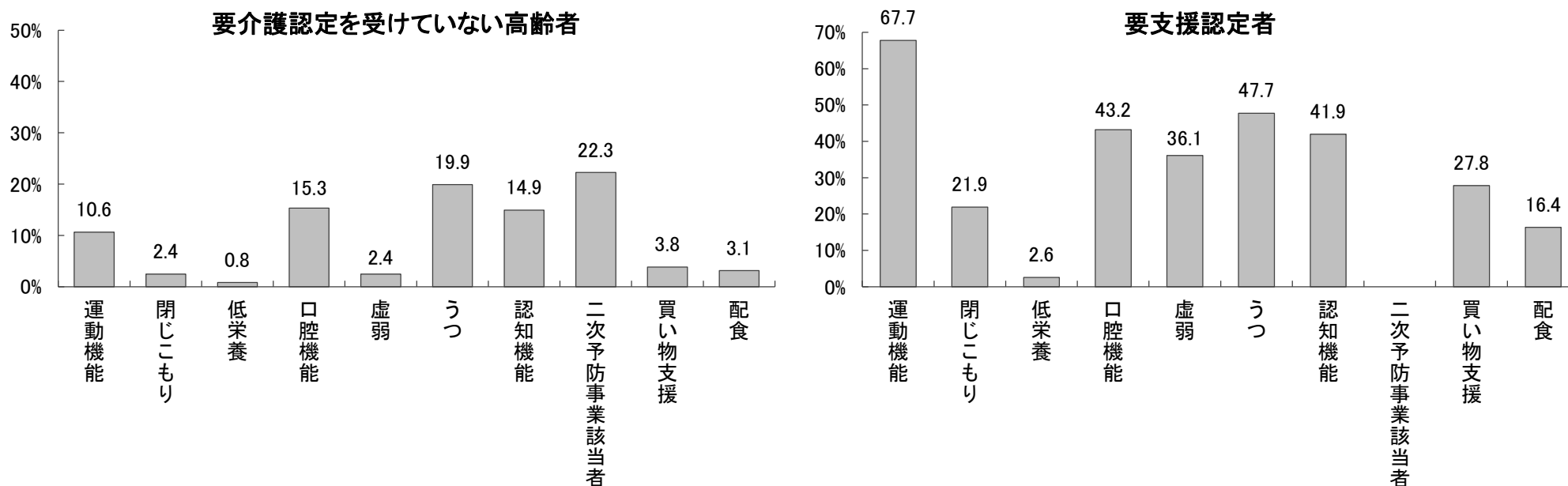


## 高齢者の生活機能の状況と生活支援ニーズ ～高齢者生活実態調査結果より～

## 1 全体

- ・運動機能～認知機能までの生活機能の低下がみられる該当者の割合は、認定を受けていない高齢者は「うつ」19.9%、「口腔機能」15.3%、「認知機能」14.9%の順に高い。「運動機能」「低栄養」「口腔機能」「虚弱」のいずれかに該当した介護予防事業の「二次予防事業該当者」の割合は22.3%となっている。要支援認定者はどの項目も認定を受けていない高齢者に比べて高い割合となっている。特に「運動機能」は67.7%に達しており、認定を受けていない高齢者との差が大きい。
- ・生活支援（買い物支援・配食）ニーズがある人の割合は、認定を受けていない高齢者では3%台となっている。要支援認定者においては大幅に割合が増加し、「買い物支援」は27.8%、「配食」は16.4%となっている。

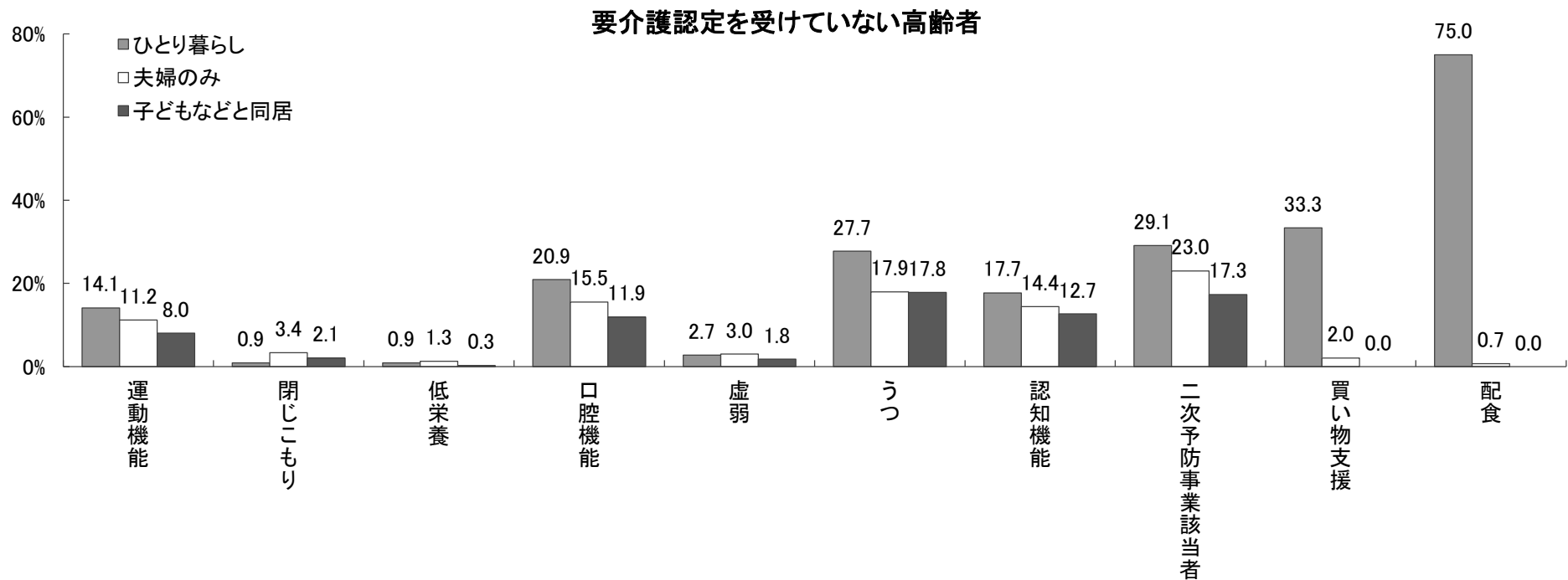


※運動器～うつは、生活機能状態を評価するための基本チェックリストに基づき判定した結果。認知機能は、認知機能障害程度（CPS）に基づき判定した結果（1レベル（境界的である）以上の障害がある）

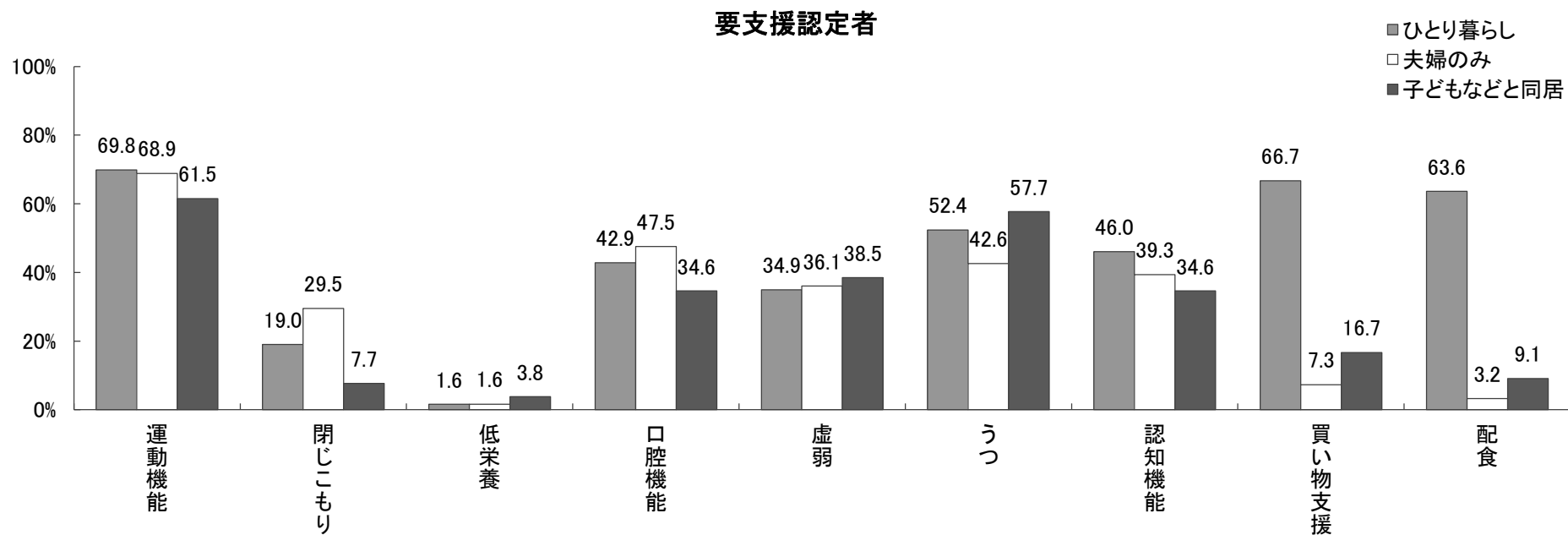
※買い物支援は日用品の買い物の自立度及び買い物への支援状況、配食は食事の用意の自立度及び食事の用意への支援状況に基づき判定した結果

## 2 家族構成別

- ・ 認定を受けていない高齢者について、生活機能の低下がみられる該当者の割合を家族構成別にみると、「運動機能」「口腔機能」「うつ」「認知機能」はひとり暮らしの人がもっとも高く、これらの項目は、ひとり暮らしの人に重点的にアプローチしていく必要性が高いといえる。
- ・ 生活支援（買い物支援・配食）ニーズがある人の割合は、ひとり暮らしの人が突出している。「買い物支援」は 33.3%、「配食」は 75.0%と、認定を受けていない場合でもひとり暮らし高齢者の生活支援ニーズは高いことがわかる。

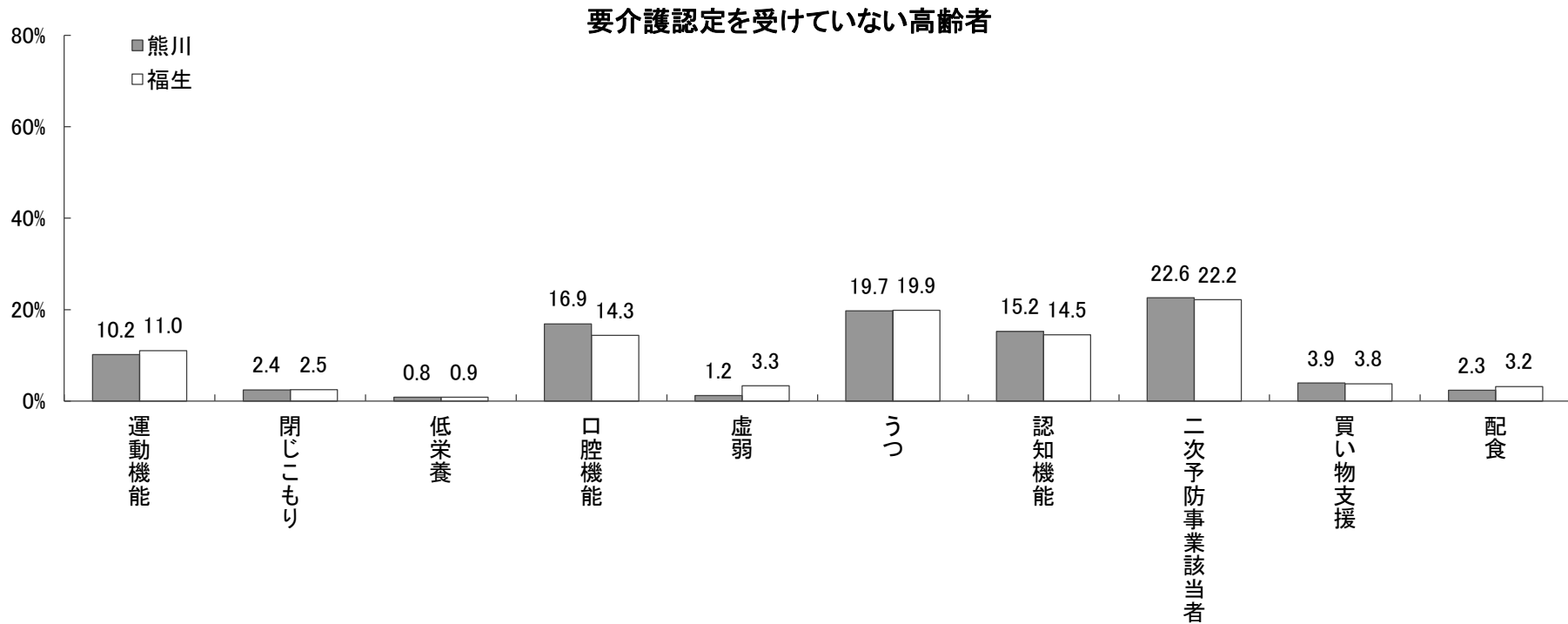


- ・ 要支援認定者について、生活機能の低下がみられる該当者の割合を家族構成別にみると、「閉じこもり」「口腔機能」は夫婦のみ、「うつ」は子どもなどと同居、「認知機能」はひとり暮らしの人において高くなっている。
- ・ 生活支援（買い物支援・配食）ニーズがある人の割合は、認定を受けていない高齢者と同様、ひとり暮らしの人に高く、買い物支援・配食とも6割台となっている。



### 3 居住地地域別

- ・ 認定を受けていない高齢者について、生活機能の低下がみられる該当者の割合を居住地地域別にみると、どの項目も地域別による大きな差はみられない。
- ・ 生活支援（買い物支援・配食）ニーズがある人の割合についても、同様に、地域別による大きな差はみられない。



- ・ 要支援認定者について、生活機能の低下がみられる該当者の割合を居住地域別にみると、熊川地域は「運動機能」「うつ」「口腔機能」、福生地域は「運動機能」「うつ」「認知機能」の順に高くなっている。
- ・ 生活支援（買い物支援・配食）ニーズがある人の割合は、「買い物支援」は福生地域、「配食」は熊川地域のほうが高い結果となっている。

